

園芸を中心とした認定新規就農者の経営安定支援

東近江農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

平成23年8月に就農したT氏は、露地野菜＋露地花き経営に取り組まれています。キャベツの契約栽培では、平均を上回る収量を確保されていますが、ブロッコリーはべと病・根こぶ病による減収が課題となっています。また、7～8月咲き小菊栽培については、平成26年度には8月の高値の需要期に全く出荷がないなど、需要期での安定出荷が課題となっています。

さらに、今後の規模拡大により小菊の収穫時期と野菜の定植時期の作業競合が懸念されることから、これらの課題解決を目指し、安定的な経営が行えるよう支援しました。

【普及活動の内容】

ブロッコリーの病害対策として自ら防除計画を作成し、自主的に防除できるよう支援しました。また、キャベツ＋ブロッコリーの作型における労力配分について、定植機の導入や早生水稲跡ブロッコリーの導入など、労力に見合う栽培方法の実践に向け指導しました。

露地花きでは、小菊の露地電照栽培による開花調整技術の導入を提案し、需要期に出荷するための技術習得を支援しました。

このことで、小菊の収穫時期と露地野菜の定植時期における作業競合の回避も可能となり、栽培面積の拡大に向け指導しました。

【普及活動の成果】

キャベツ＋ブロッコリーの栽培面積は、病害の発病を抑えつつ露地花きとの労働競合を回避し、100a (H26) → 177a (H27) → 221a (H28) と拡大することができました (図1)。小菊は、電照栽培の技術習得により、採花、出荷を集中させることができ、今後の計画出荷につながりました。栽培面積 (H27: 6a → H28: 17a) も露地野菜との競合を回避しつつ拡大することができました。

また、就農計画の収益目標も77.5%まで達成できました。今後は、就農計画の経営管理に関する目標の達成に向け、各品目の面積増加による労働配分について自らがそのバランスを判断できるよう支援していきます。

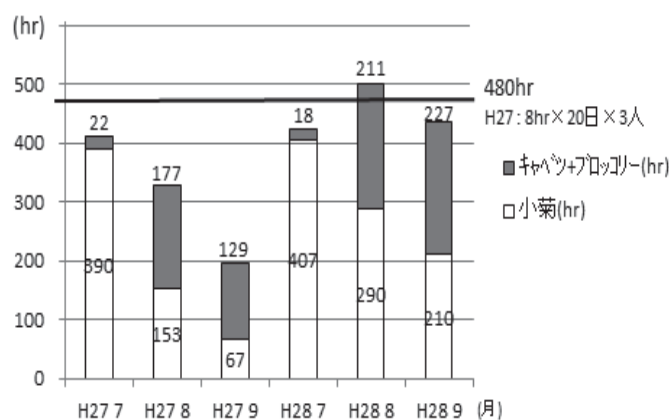


図 各品目における月別労働時間 (hr)

◎対象者の意見

キャベツ＋水稲跡ブロッコリーの作型については、小菊との労働競合を回避しつつ取り組めた。また、電照栽培により需要期に集中出荷できたことは経営的に非常に効果があり、安心して小菊栽培を拡大・継続することが出来る。(T氏)